令和７年度 事業報告

１．はじめに：法人理念の体現
令和7年度、当法人は「地域の方たちとワンチームになり、誰もが輝ける社会をつくる」という理念のもと、利用者一人ひとりの希望やペースを尊重し、安心して自分らしく暮らし、働ける支援に取り組みました。

２．事業運営の概況
【陽光園】生活介護では、本人のペースや好みに合わせた活動、散歩・運動・お楽しみ企画を実施。老朽化対策として、陽光園から新拠点への段階的移行を検討しました。
【第二陽光園】施設入所支援・生活介護では、歩行・散歩、折り紙・お絵描き・プットイン活動、お楽しみ会等を実施。女性棟の個室化を検討しました。
【てんしゃば】共同生活援助包括型では、職員手作りの食事、外出・買い物・地域行事を支援。定員増について、需要と経営バランスを踏まえ検討しました。
【ほっと】一般相談・特定相談・障害児相談として、障害児・者や家族の相談、情報提供、福祉サービス利用支援、関係機関との連絡調整を行いました。
【ふらっぐ】就労継続支援B型では、パン材料の受け取り・配達・備品確認等、本人に合った働き方を支援しました。
【GOOD JOB】就労継続支援B型では、請負作業を依頼してくださる業者様のもとで、公園清掃、リサイクル物・ヨーグルトの分別、車部品の解体・分別等に取り組みました。
【がじゅまる】共同生活援助日中型では、入居者の選択・決定を尊重し、自分らしく安心して暮らせる住まいを支援しました。

３．重点項目の達成状況
財務状況は法人全体で約3,400万円の黒字となりました。一方、事業所間の収支差が課題となりました。新卒採用の難しさを踏まえ、学生対象の就職説明会への参加を開始しました。

４．施設整備・長期重点事項
基幹相談支援センターの開所準備を進め、1市4町と連携した地域支援体制の充実を図りました。ひろがるWAラボは、生活介護と就労継続支援B型の多機能型事業所として令和8年4月1日開所に向け準備しました。
栄町新事業所は助成金不採択を受け、建物縮小・設計見直しを行いました。陽光園から新拠点への段階的移行、てんしゃばの定員増も引き続き検討しました。
AIを活用した記録システムの導入、災害時の職員安否確認訓練を実施・検討しました。

５．委員会活動・法人行事
研修、人権倫理、苦情解決、危機管理、広報等の各委員会を機能させ、支援の質と法人運営の改善に取り組みました。人権倫理では身体拘束適正化・虐待防止を確認し、苦情は事業所内で対応・解決しました。
秋まつりは、従来の大規模開催から各事業所でキッチンカーを招く小規模イベントへ変更し、利用者がゆったり楽しめる機会としました。
理事会を7回、評議員会を6回開催し、透明性の高い経営に努めました。

６．今後の展望と課題
令和8年度は、栄町新事業所の再整備、基幹相談支援センターを核とした1市4町との地域連携、ひろがるWAラボの運営を進めます。陽光園から新拠点への段階的移行、てんしゃばの定員増、新卒採用、人材育成、AI記録システムの活用を継続します。計画の修正を余儀なくされる場面もありましたが、地域に必要とされる法人を目指し、利用者・家族・地域とともに歩みます。